

# 日銀漂流、その漂着先

ジャーナリスト  
西野の智彦



\*執筆の原点は高橋亀吉『昭和金融恐慌史』

\*「2年で2%」が生まれた経緯

\*マイナス金利への政策変更について

\*経済のシグナル効果を阻むYCC

\*今や複雑怪奇な金融政策体系に

\*量的緩和政策が生まれた背景

\*議論未消化のうちに改正された日銀法

\*政治がリフレ派を活用する新たな展開

\*日銀の出口戦略を考える

\*2022年の外的ショックで試される適応力

**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

本日は先週に続きまして、21年度の石橋湛山賞の受賞者の記念講演ということでお話をいただきます。

西野さんは現在、TBSの常勤監査役をされておられますが、1958年のお生まれで、慶應大学をご卒業後、時事通信に入られ、その後、当時の東京放送に移られて、今日のお話の日銀、それから首相官邸、その他様々な現場を歩かれた後、報道局長、総務局長を歴任されて現在に至っております。

受賞したご著書の『ドキュメント日銀漂流』

は日銀のある意味で長大なドキュメントでございます。今日はそのエッセンスをお話しいただきます。ここでも日銀のお話はいろいろな方が

されておられますが、まとまって日銀の政策が今現在どうなっているのかということをごさちんとお話しただけということでございますので、今日はじっくりお話を聞いていただきますと思います。

（拍手）  
それでは西野さんよろしくお願いいたします。

**執筆の原点は高橋亀吉**

『昭和金融恐慌史』

西野 過分な紹介をいただきましてありがとうございます。

ロシアのウクライナ侵攻という世界史の大事件がコロナショックに続いて起きました。これが今後の世界にどういう影響を及ぼしていくの